

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	入戸野 宏	所属	広島大学
連絡先 (電話・E-mail)	須藤智 (静岡大学大学教育センター) ossuto@ipc.shizuoka.ac.jp 静岡県静岡市駿河区大谷 836 静岡大学 大学教育センター 054-238-4299		
研究集会等名称	技術心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 32 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 34 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 <目的> 実験心理学の産業・工学分野への適用の現状を紹介するとともに、実験心理学のスキルや知見を実社会で生かすための方策を議論する。</p> <p><成果> 内容： 1) 日本心理学会大会においてシンポジウムを開催した。 2) 日本認知心理学会社会連携促進シンポジウム 2 を共催した。 3) 心理学の実学適用を行っている研究者の実践例をウェブサイト (http://techpsy.jp/) で公開し、実務家と研究者の架け橋を提供した。 4) 技術心理学に関する教科書の出版を目指した活動を行った。</p> <p>1. 日本心理学会第 78 回大会 シンポジウム 「実学としての実験心理学 5 —工学・産業・社会へのアプローチの最前線— 日時：2014 年 9 月 12 日 場所：同志社大学 企画代表者、指定討論者) 入戸野 宏 (広島大学) 企画者、司会者) 永井 聖剛 (愛知淑徳大学) 企画者、指定討論者) 熊田 孝恒 (京都大学/理化学研究所) 話題提供者) 藤崎 和香 (産業技術総合研究所) 話題提供者) 須藤 智 話題提供者) 和田 有史 (農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所) 話題提供者) 植田 一博 (東京大学)</p> <p>シンポジウムには、多くの学会員が来場し、会場は満席での開催となった。この盛況ぶりから、「実学としての実験心理学」に対する関心の高さが伺えた。4 名の先生方のご研究についての発表後の議論では、「実学としての実験心理学」に関する情報交換、今後の課題について有益な議論がなされた。</p>		

2. 日本認知心理学会 社会連携促進シンポジウム2 (共催)

「認知心理学と企業における研究・開発」

日時：2014年11月18日(火)

会場：京都大学、東京オフィス

講演者

石川敦雄(株式会社竹中工務店 技術本部)

松寄直幸(サントリーグローバルイノベーションセンター
株式会社研究部)

永井聖剛(愛知淑徳大学 人間情報学部)

和田有史(農業・食品産業技術総合研究機構

食品総合研究所食品機能研究領域 食認知科学ユニット)

主催：日本認知心理学会

共催：NTT データ経営研究所

応用脳科学コンソーシアム

技術心理学研究会

シンポジウムでは、認知心理学に対する産業界からの要請の背景と現状、また、それらに対して心理学がどのように答えようとしているのかを議論した。特に、企業で研究・開発に携わっておられる方から、企業における認知心理学の位置づけの実際や認知心理学に対する期待をお話しいただいた。また、企業などとの共同研究に取り組んでいる研究者からは、産業からの要請に対して、認知心理学に何ができるのか、をアピールしていただいた。

3. Web ページの充実

本年度は、心理学の実学適用を行っている研究者の実践例を Web ページで公開することを行った。この実践例については 2015 年 4 月 11 日の第 8 回研究会にて報告する場を設定することとした。

ワークショップ及びシンポジウムには、心理学領域の研究者のみならず、工学系の研究者及び企業の商品開発に携わっているメンバーからも参加があり、実験心理学の研究成果の発信のみならず、他領域及び社会へ貢献するための方法を考えるための有意義なディスカッションの場となった。

今年度の議論を踏まえ、次年度以降は、1)研究会の開催、2)心理学の実学適用を行なっている研究者の研究分野一覧のHP上での公開及び社会と実験心理学研究の架け橋として機能するシステムの構築、3)技術心理学に関する教科書の出版を目指した活動を行なう予定である。今後の本研究会の活動によって、このような情報が多くの研究者によってシェアされ、我が国のさらなる心理学の発展に寄与する組織的な活動の実現が期待される。

2015年 3月 30日

日本心理学会研究会 2014 年度会計報告書

研究会名称 技術心理学研究会

研究会番号 14007

助成金額 ¥473

年月日	項目	金額
2015年3月25日	資料用印刷用紙	¥473
支出合計		¥473